



新党結成は茶番劇である

金融アナリスト
永山卓矢

— 小池新党の持つ真の性格とは —

【小池都知事を操る米国の対日工作】

22日に実施される衆院総選挙に向けて、小池東京都知事が新党「希望の党」を結成。当初、この新党結成で自公連立与党が大幅に議席を減らすと言われていた。ところが、この新党は民進党との合流を巡り混乱した事で批判を浴びてしまい、直近の世論調査では自民党の圧勝が予想されるようになってきている。

そもそも、今回の総選挙では新党の代表に就任した小池都知事が出馬しないなど、首班指名候補も明らかにしていない。本当に政権を獲りにいく気があるのか、疑問視せざるを得ない。

日本の政局を考える上では、“宗主国”である米国の意向を抜きに語れない。かつて、小池都知事は米国の意向を受けて設立された日本新党から出馬して政治家になったという事を忘れてはいけぬ。その後、彼女は共和党系新保守主義（ネオコン）派主導の米国に支えられていた小泉政権下で防衛相など要職に就き、しきりに小泉首相（当時）を「あなた」と呼んで毎日弁当を持参していたなど、親米的な性格を如何なく発揮していたものだ。

そうした小池都知事の背後で暗躍していたのが、米中央情報局（CIA）の対日工作班を率いていたカーティス・コロンビア大学名誉教授であった。最近でも、小池都知事が昨年7月31日の東京都知事選挙に電撃的に出馬して勝利したのも、今年7月3日の都議会選挙で自身が率いた「都民ファーストの会」が圧勝したのも、その背後でカーティス名誉教授がいたとされている。

都議会選挙では自民党が大敗したが、森友・加計問題で安倍首相やその周辺が攻撃されるなど、自民党にとっては多くのスキャンダルが逆風になった。週刊文春をはじめとする週刊誌の記事が逆風に拍車をかけたが、いかにもCIA工作員の工作を窺わせるものだ。そこにはカーティス名誉教授の“親分”である国務省官僚群の“ドン”であるキッシンジャー元国務長官が、極東に根付く特異な宗教勢力を背後に控える安倍首相を嫌っている事があったのだろう。

【安倍政権が打倒される筈がなかった】

ところが、現在の米トランプ政権で主導権を握っている親イスラエル右派の共和党系ネオコン派は、米ロックフェラー財閥の意向を受けて中国を「悪の帝国」に仕立てて「新冷戦」構造を構築しようとしているが、そこではロシアを中国から切り離して提携しようとしている。そこに大きな意味を持っているのが、安倍首相とロシアのプーチン大統領、トランプ大統領の娘婿のクシュナー上級顧問による、親イスラエル勢力につらなる極東の宗教勢力のトライアングル関係だ。共和党系ネオコン派主導のトランプ政権が安倍首相を重用しているのも、その右翼的な性格だけでなく、そうした背後の勢力に重要な意味があるからだ。

ただここで重要な事は、こうしたロシアとの提携を前提とした中国封じ込め政策を提唱していたのは、そのネオコン派と対立していた外交問題評議会（CFR）系と、提携していた国務省官僚群を率いるキッシンジャー元長官であったという事。そうした意味ではキッシンジャー元長官が如何に安倍首相を嫌っていても、政権が打倒される程、執拗に攻撃される筈もなかったと言える。

実際、森友・加計問題による安倍政権への攻撃は、民主党系ネオコン派を率いていたクリントン元国務長官が事実上、後継首相に指名し、安倍首相も「院政」が出来る事から好感していた福田元防衛相がはずされてしまい、次期首相に旧宏池会系の岸田政調会長が推される事が事実上、内定した事で終わったようだ。安倍首相としても、岸田派の実質的な“ドン”である古賀元幹事長を味方に引き入れた事で、自民党内の基盤を固める事に成功したと言えなくもない。

またそれにより、石破元地方創生担当相を担いでいる額賀派を孤立させ、さらに麻生派から河野外相を閣内に引き入れた事で、財務官僚に押し上げられている麻生副首相兼財務相も“浮き上がらせる”事に成功したと言える。

だとすれば、今回の小池都知事を中心とする新党結成の動きについても、そもそも安倍政権を打倒する気がないのだから、都知事自身が衆院選に出馬して首班指名への意欲を見せたり、過半数を獲得しようとする気を見せないのも当然だといえる。

【本当の目的とは何か】

ここで今一度考える必要があるのが、米国が日本に何を求めているのか、安倍政権にどのような政策を推進する事を望んでいるのかという事。米系財閥が主導権を握った米国は、中国を相手に新冷戦構造を構築しようとしているが、かつてのソ連を相手にした旧冷戦時代に比べると国力が減衰しているため、日本を「核の傘」で守る事で完全に属国状態にするのではなく、軍事面でも積極的に貢献させようとしている。自衛隊を国軍に昇格させた上で積極的に海外に派兵し、戦闘活動にも参加出来るようになり、防衛費も他の主要先進国並みに対GDP比で2%程度にまで増額させ、核兵器を保有する事で中国を威嚇するようになる事だ。

共和党系ネオコン派に操られている朝鮮人民軍が主導権を握る北朝鮮に核開発や保有をさせているのも、究極的には日本の核武装が目的である。言うまでもなく、そのためには第9条による平和憲法を特色とする現行憲法を改正する事が欠かせない。

そのためには、日本国民の間では依然として改憲に向けた世論形成が不十分な中で、それを主張している右派的な勢力がさらに活発に活動出来るようにさせる必要がある。新党「希望の党」が民進党の議員を受け入れるにあたり、小池都知事が安保法制や改憲の観点から各議員の政治信条を厳選していくと表明し、さらに今回の選挙戦についても時間がない事を理由に、有権者に掲げる政策綱領は小池都知事側が担当して民進党側には一切関与させようとしなかったのも当然である。

そうした意味では、民進党が事実上、消滅して主力議員が小池新党に吸収されていったのも、さらには今回の解散総選挙自体も、米国主導で右派勢力を拡大させるための一環と言える。

そもそも、これまでの日本での政党工作は「安倍一強」への対処から野党連携が叫ばれたが、そこでは自民党や創価学会の公明党に並ぶ強固な組織票を抱える共産党の影響力が大きくなり、同党中心で連携していくとなれば、民進党では左派リベラル系の議員が執行部で主導権を握らざるを得なくなる。

特に最近では若年層の政治離れが進み、投票率が伸びなくなっている中では組織票を多く抱えている政党が有利な情勢になっているので、野党の間では余計に共産党が影響力を強めやすくなっている。そうした流れに乗って民進党代表に就任したのが蓮舫参院議員であったのだが、それに対して右派系議員の不満が高まり、離党が相次いだのも当然である。

こうして見ると、民進党で蓮舫議員が代表を辞任して以降の一連の動きは全てシナリオ通りである事がわかる。民進党の新代表に右派系の前原元外相が就任した事はもとより、左派系の山尾衆院議員を新幹事長に就任させる意向を示した上で、不倫問題で陥れたのも最初から仕組まれていたのだろう。一方で、安倍首相が内閣改造をしてすぐに解散総選挙に打って出たのも、巷間では森友・加計問題で追及されるのを阻止するためとの見方が一般的だが、そうではなく政界再編を企んでいる勢力からの指示通りに動いているものではないか。

小池都知事は表面的に安倍政権打倒を掲げているが、実際には安保法制の強化や改憲に向けて、安倍内閣の「閣外協力与党」を形成しようとしているのである。

永山卓矢の「マスコミが触れない国際金融経済情勢の真実」

詳しくはこちらへ → <http://17894176.blog.fc2.com/>

ガテクニカル

ブレイクアウト

先週の日経平均株価は、2015年6月24日の高値20,954を更新し、1996年11月以来の高値となる21,211をつけた。

更に先週の当欄でも指摘していた週足のウェッジパターン上限を突破し、新たな強気のステージに入ったようだ。

なお、以前から述べてきた目標値は依然として有効である。即ち「ブレイクアウトは兼ねてからの目標値21,400±250に向かうだろう」。

大局はこれまで述べてきた如く、長期サイクルは依然として上昇。中期サイクルでは今週は6週目に入る。

先週のコメントは次の通り「その間、現在までの中期サイクルは20週—23週—20週と3つ刻まれ、何れも強気型サイクル。9月8日を起点としたこのサイクルは今週は5週目に入る。強気型を想定したサイクルベースから見ればまだ天井は打たない。過去3つの上昇期間は18週—16週—9週であった。このサイクルの上昇を支えているが20週移動平均。先週は19,942。このレベルは丁度9月の週間ギャップが発生した価

格帯(19,933～20,122)に位置している。基本戦略はこのギャップを埋めるまで強気を維持する」。

今週の20週移動平均はほぼ2万に存在(先週末で20,019)し、ギャップの中央値にあたる。トレンドが発生した時の相場は、シンプルに移動平均だけを見ておけば良い。複雑なオシレータ分析は必要ない。特に、長期サイクルが上昇期の時は有効だ。

先週、懸念したトピックスとの市場との異市場間弱気ダイバージェンスは発生しなかった。即ち「あとはトピックス先物との弱気ダイバージェンスの出現には注意しておく。両市場は2015年の高値を目指しており、どちらかが更新しても、他方が失敗すれば警戒すべき弱気シグナルとなる」。

両市場とも、2015年の高値を更新した。

上昇トレンドを追いかけつつ、弱気シグナルとしてはウェッジ内に再突入した時は短期のロングを利食いし、下げの様子を見ておく。中長期はプライマリーサイクルベースから依然として天井はまだ先、恐らく11月中旬頃になると予想されるので、それまでの全ての押し目は9月のギャップを埋めるまで買い方針を継続としたい。

今週の押し

2本のネックライン

先週次の通り述べた。少々長いがユーロ／ドル相場はまさにこの記述通りに進んでいる。即ち“…今週は反転上昇するかも知れない。先ず、15日スローストキャスティクスが先週末の段階で12～13%と前週の水準よりも上昇している。…強気オシレーターダイバージェンスが発生した可能性が出ている。次に、日柄面で先週は1月3日の安値から39週目であった。…2015年3月以降、安値から38週、29週、28週目で安値をつけていた。ここでの安値は節目となりやすい。更にチャートパターンの観点からは、1月3日の安値に起因するトレンドラインを用いたチャネルラインの上限エリアに先週の安値で突入した事に加え、前週からの日足の線形はウェッジパターンと呼ばれる反転急上昇を示唆するパターンに見える。今週、相場が1.1630～1.1700付近を維持するか、反転して69日移動平均がある1.1750付近を引け値で上回るようなら、恐らく先週の

安値は30週前後の新たなサイクルの起点になっている公算が高い。サイクルの序盤は強気である事から、今週は既存の売り玉を全て利食いし、買いに転じる事を推奨する。今後の相場基調の強弱を問わず、目先は少なくとも23日移動平均付近までの上昇は見込めるだろう。そこで3分の1程度の利食いを行っても構わない。何故なら、これは先週も指摘したが、現行相場は8日高値を頭、8月安値を左肩、そして先週6日の安値を右肩に新たな三尊天井を形成するかも知れないからだ”。

ウェッジパターンを上放れた相場は先週末に23日移動平均まで上昇した。従って買いポジションの3分の1を利食いしたい。

先週末時点で、相場は8月末からの三尊天井ネックラインを試しにかかっている。これを上回るようなら、1月3日の安値に起因するトレンドラインを用いてもう一本のチャネルラインを9月高値に引き、ここを目先の上値目標としたい。

逆にこのネックライン突破に失敗した場合は先週予測したもう1つの三尊天井ネックラインを試しにかかるだろう。ここで維持できれば再度反騰。維持できなければしばらく下げ基調か。



今週の**九星★波動**

急騰、急落に注意

南雲 紫蘭

カタルーニャ地方の独立問題は、結局スペインの分裂や、ましてや欧州の分裂にはつながらない、との安心感を与えています。そもそも独立の資格は持ったけれども、一時停止するとはどういう意味なのか、結局分裂する気はない、と思われても仕方ありません。

しかも、「いったい何をする気がわからない」（市場筋）北朝鮮や米国と違って、欧州はなんだかんだ言って「理性がある」（同）と思われます。となれば、市場は景気の巡航速度の安定さを反映して緩やかに上昇する一となりそうです。

ある意味地政学的リスクが良いスパイスとなり、リスク回避とリスク選好が良いバランスを保っている一とも言えそうです。こうした「やや不安はあるが景気は順調」というのが一番いい状態かも知れません。これほど「ユーフォリア感のない景気回復も珍しい」（エコノミスト）ともいえるのです。

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (416)

中原 駿

UOBプラザは、この当時最先端のインテリジェントビルとあってよかった。

エレベーターは、巨大な吹き抜けのホールにあり、その数は10基もあった。

各階別に乗るエレベーターが決まっており、そしてiDカードがなければ乗ることが出来ないセキュリティも — 現在では常識となっているが — 当時は極めて斬新かつ最先端だった。

上野は知り合いのグッドバイのディーラーに一階まで降りてもらふ必要があった。

上野のカウンターパーティはジェイムスといった。

ジェイムスは、もちろん金髪青目のアングロサクソン系ではなかった。

第六感の 金のフラクタルに固執



テクニカルアナリスト 葛城 北斗

押し目買いに徹する

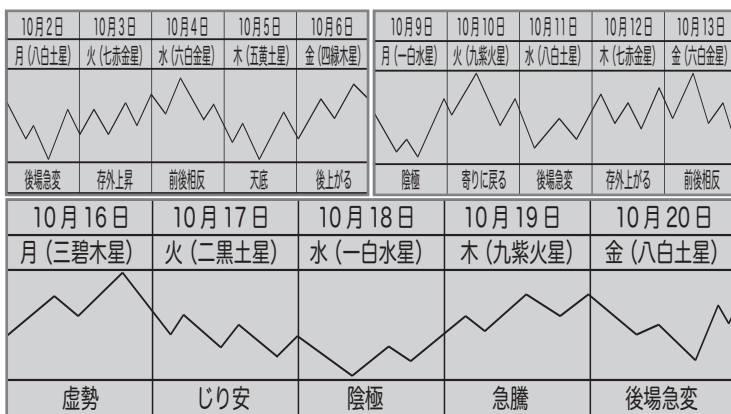
ドル円相場は10月6日に113円43の高値を形成後、ラウンドトップ気味に下げに入った。この時点で過去2回のサブサイクルトップに届かず、調整に入っているが、引け値で111円を維持できれば、再度の上昇で高値を更新、114円台を狙う動きになると見ている。

北朝鮮のミサイル実験は警戒される場所であるが、このケースでは下げたところは買いになるとみている。たとえそれが111円台を割ったとしても、直ちに切り返せば、押し目底になろう。しかし何事も事件がなく111円台を割って引けたときはサブサイクルがトップアウトした可能性を強める。

前回提示した金とのフラクタルは今回の微妙な調整でやや懸念している。8月のコメントを参照する「ドル円の6月、7月のダブルトップが時間はズレるがNY金でも4月、6月に出現した。2市場の2つの高値を重ね合わせると現在のドル円相場の下げが金の6月の動きを再現している。今後期待されるのは、金が7月にM型の安値を付けて反発したような動きがドル円でも再現されるか注目したい」。その反発がここに来て鈍化しつつあるが、金相場を見ると形は異なるが上昇過程の中段で生じた上昇ウェッジ系が高値更新型であった。そして最初の高値を付けたときからその終了まで18営業日かけて形成された。ドル円は9月21日に最初の高値を付け、16営業日を経過。

さて九星高下伝は10月8日から月盤が《九紫火星》に入っています。何事も極端な値動きにつながりやすいので注意が必要。引き続き急騰、そして急落に注意。

急騰がなければ、逆に言えば下げもあまり大したことはないのかも知れませんが…。



このシンガポールでは、東洋系の — 多くは中国人 — がその雰囲気合った英語の名前を持っているのだった。

もちろん、それは通称だったのだが、現地生まれのシンガポール人には本当にそうした名前を持つ者がいた。

ジェイムス・タンとか、エディ・チンとかいった、東洋系名字に欧米風の名前を組み合わせたものだ。

上野は当初とても違和感を感じていたが、住んで数年ともなるとシンガポールの個性と思えるようになった。

そもそも、日本でもジェームス斎藤とか欧風と日本風の名前の組み合わせはよくある。そうした風潮が広く浸透していると思えば違和感はない — そう思えるようになったのだ。

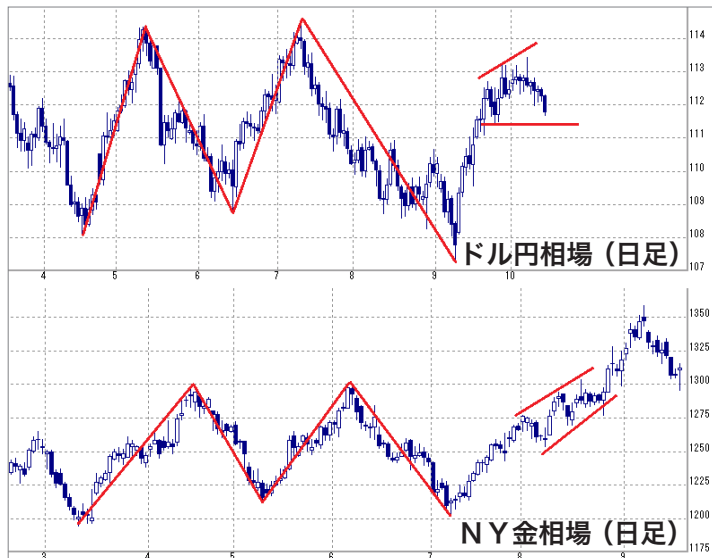
ジェイムスは典型的な中国顔のようにも見えた。

短髪、刈込まれた襟足、きつめの長い目に太い眉毛。きりつとした両端の上がっている唇に黄色い歯。

直近の陰線を包む長大陽線は反騰再開のシグナル。

先週はアバウトに眺めておくとして述べたが、111円を引け値で割り込んだ時は、さすがに形が崩れている事を確認する。その場合は金のフラクタルを放棄する。同時にサブサイクルがトップアウトした懸念も生じる。

これまでのストラテジーは次の通り。「113円台利食いした投資家は再び高値更新を狙って112円台でロングを狙う。ストップは111円割れの引け値に設定……。次は114円台を狙う」。111円を下回る引け値にストップを置き、次の修正安目標値111円50±0.26のレベルがあれば余裕のある投資家は112円台に続き、さらに買い増しを狙う。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第61回】NY金のサイクルについて (7)

22.5年(270カ月)サイクルが3つの7.4年(約89カ月)サイクルで構成されるNY金の長期サイクルは、更に3つの34カ月サイクルで構成されています。『フォーキャスト2017』の中では32.5カ月±5カ月と書かれていますが、MMAサイクルズレポートでは現在も34カ月サイクルと表記されています。恐らく、これはトレンド指標に用いる移動平均線に関係しているのかも知れません。34カ月移動平均は、この長期サイクルを図る上で非常に重要です。

第2-7.4年サイクルに内包する34(32.5)カ月サイクルは、第1、第2位相まで想定通りの日柄でボトムをつけましたが、第3位相だけ起点から13カ月目の2015年12月の安値から急騰します。当初この安値は内包するサブサイクルボトムであり、次の反落場面での安値を割り込むと思われていましたが、一向に下げず、現在は34カ月平均が重要なサポートになっています。従ってこの13カ月のサイクルは、現在短縮された第3位相であったと見られています。

メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

今週は天王星が強調される週

アストロロジーからみた“変化日”は、あくまで変化する時間帯であって、必ずしも「反転」を意味するものではない。星回りで相場の方向性は予測できないので、多分に「加速」の可能性もある。まさに先週の株式相場は「加速」の時間帯であった。

日経平均株価を例にとると、相場は10日の木星サインチェンジ以降上昇を加速させ、先週末13日には96年11月以来の高値を記録している。

米国時間27日(日本時間28日)の木星・天王星オポジション(180度)の最終回は、株式市場の長期相場サイクルの節目をつけやすいとされていた。だが、この天体位相は過去2回ともオポジション発生当日に節目は出現していない。それ故に、メリマン氏は「±1~2週間程度」のオーブ(許容範囲)を設定していた。先週末はオポジション発生から2週間目である。従って、相場は今週下げ基調に転じる可能性。今週は15日も含め“ハブニング”の星である天王星が活躍する点が気になる。

高く仕入れて安値で投げる投資家から
脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持ち続けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望銘柄掲載〉！



株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー
代表取締役社長

足立 真一 著

発行：開拓社 定価：1,296円(税込み)

第2-7.4年サイクルの時もそうでしたが、ある程度の長期サイクルの第1位相は強気です。もし現行相場が第3-7.4年サイクルの第1位相なら、ある程度の長期間強気相場が続く筈。昨年7月6日の1,377.50を超えると吹き上げ相場になるかも知れません。今のところ15年12月安値、16年12月安値、更には34カ月平均を引け値で割り込まない限り、基調は強気です。



先ず15日、水星が天王星とオポジションになる。次に19日(日本時間20日)は新月、即ち太陽と月がコンジャンクション(0度)を形成するのだが、同日は両惑星が天王星とそれぞれオポジションの関係になる。満月や新月、上弦、下弦は相場の節目をつけやすいとされるが、ここに天王星が加わってハードアスペクト(0度、90度、180度)が形成が形成されるので早くても遅くとも週末にかけて反転急落する可能性がある。

この天体位相影響は、株式だけに限定されるものではない。特に後者、19~20日の時間帯は、金やユーロ相場にとっても重要な時間帯になるのではないかと。10月24日~11月3日、通常の地球中心のホロスコープではなく太陽中心のホロスコープで見た射手座サインに水星が入居する(ヘリオ射手座ファクター)。この時間帯は金やユーロにとって大きな上下変動の特異日とされる。上げにせよ、下げにせよファクター開始日から4営業日前から相場は反転し、中間点付近(10月30日付近)、もしくはファクター終了日(今回なら11月3日付近)で再反転するケースがこれまで多く見られた。従って今週末と来週頭、来週末と再来週の頭は“変化日”として意識しておくべきだろう。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジー info

- 10月16日(月) 本日の動きは修正に過ぎない
- 10月17日(火) 商品市場の重要変化日(前後営業日)
- 10月18日(水) 重要変化日
- 10月19日(木) 転換を見極める
- 10月20日(金) 本日の新月は警戒
- 10月21日(土) 前波動を8分割したところに抵抗とサポートがある
- 10月22日(日) 天井が将来の底値を定義する

フォーキャストのその先へ 2017年ファイナル

【2017年 秋季勉強会】 — 来年に向け、如何に儲けるか —

四半期ごとに年4回開催しているこの勉強会。今年最後の勉強会では、これまでにお伝えできなかった事象も含め、従来よりも2倍「有用」にして「重要」な内容を皆様にお伝えします！

講師	日時
＜第1部＞ マーケットクロスオーバー Vol.2 金融経済アナリスト 神成 厚至	10月28日(土)13:00~17:00
＜第2部＞ 年後半の儲けの機会を探る 株式会社投資日報社 代表取締役 楠木 高明	貸会議室日本橋清新丹 東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町センタービル2階
	参加費 ＜懇親会なし＞14,040円(税込) ＜懇親会あり＞18,040円(税込) ※お申込み手数料等は別途負担となります。

■ 詳細・お申し込みはこちらから
(株) 投資日報社 電話：03-3669-0278 <http://www.toushinippou.co.jp/>
東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階 <セミナー>内【2017年秋季勉強会】より申し込みください